

工場DX

DX・S&OP推進本部 DX推進部

部長 森山 正二郎

Calbee

1. DX戦略における工場DXの位置づけ
2. 工場DXロードマップから4つの重点課題への取り組み
 - ✓ 工場DX標準化
 - ✓ 生産自動化
 - ✓ 工場DXのグローバル展開
 - ✓ DX人材の育成
3. 今後の展望

DX戦略の全体像における工場DXの位置づけ

企業理念を実現しながら創業から100年を超えて成長する企業を目指して、
デジタル・ITを通じて「変革」を興す

2030ビジョン



✓ 事業環境変化およびデジタル化の進展や情報流通の高速化に対応。

✓ 現場活動
(生産・物流・営業・商品開発等)
のデジタル化で得られる知見のスピーディーな活用。

工場DXは、省人化・効率化と働きやすさの両立を目指すボトムアップ型DXです。

工場DX
生産性向上・働き方改革

S&OP ^{※1}
バリューチェーンの
創出価値最大化

ばれいしょDX

財務経理DX

人事DX

R&D DX

DX人財育成

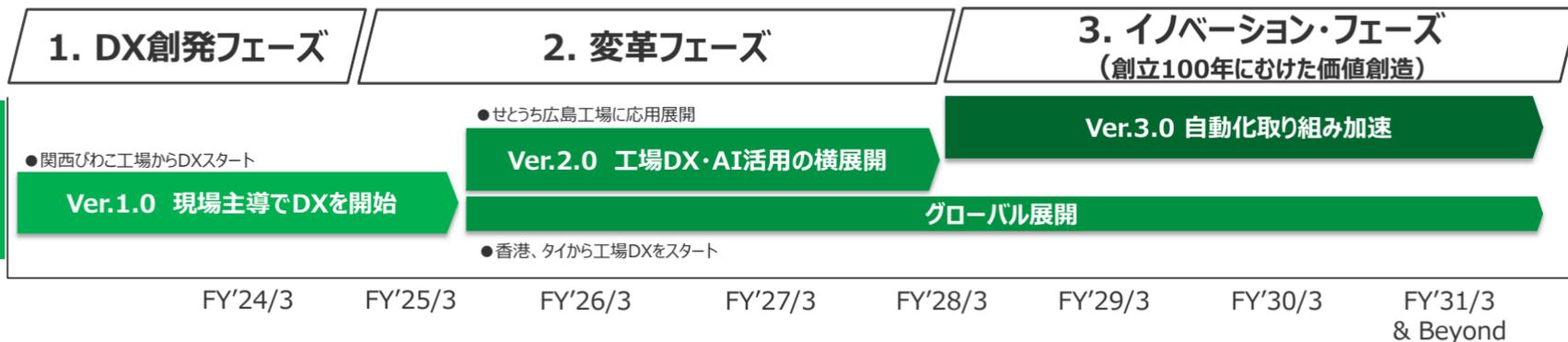
経営情報基盤

※1 S&OP:「Sales & Operations Planning」の略称

工場DXのロードマップから4つの重点課題

2024年度にDXロードマップを策定。変革フェーズ・イノベーションフェーズに向けて工場DXが取り組むべき重点課題を4つに絞り込みました。

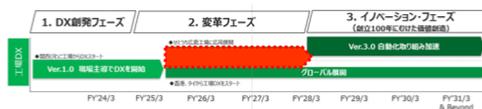
工場DX



<4つの重点課題>

- 工場DXの標準化推進
- 生産自動化への取り組み
- 工場DXのグローバル展開
- DX人材の育成

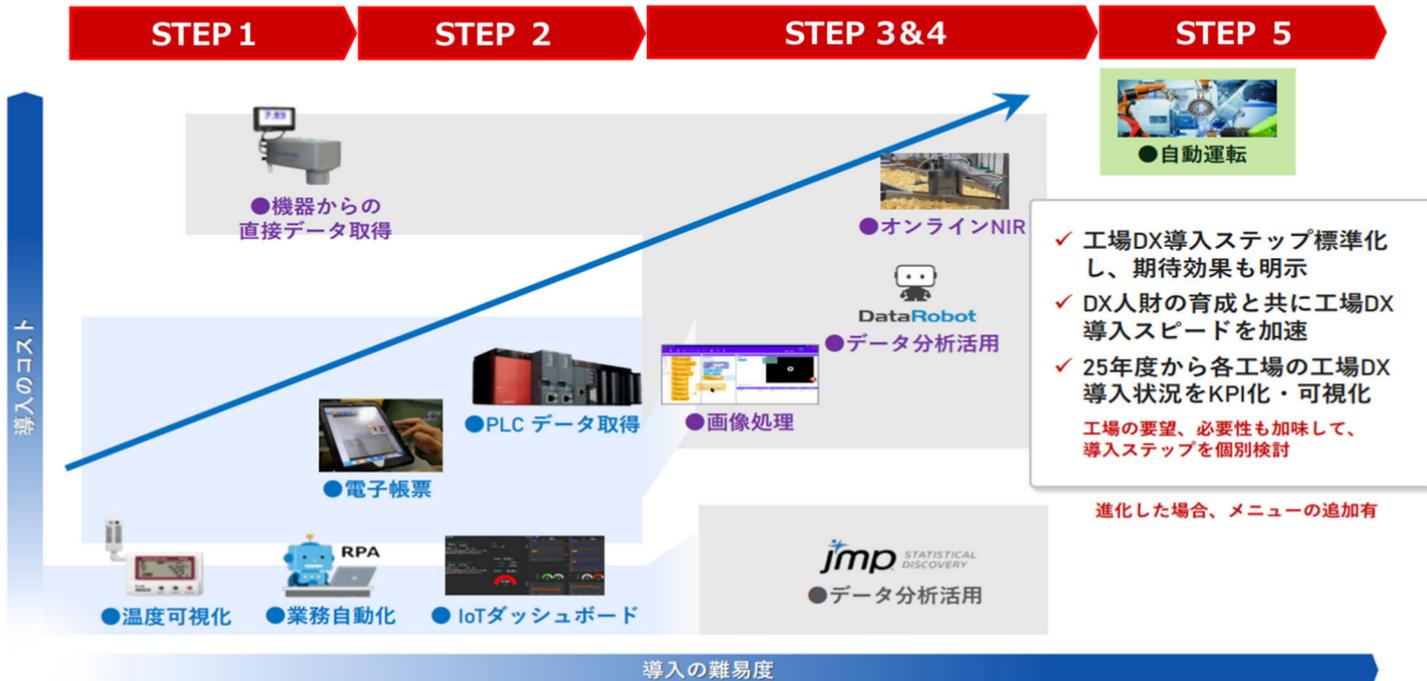
工場DXの標準化推進



掘りだそう、自然の力。
Calbee

工場DXの推進に向けた標準ステップ導入を明確化。

全13工場を直接訪問し、工場長と課長に向けて2030年度までのDXロードマップを策定。



- ✓ 工場DX導入ステップ標準化し、期待効果も明示
 - ✓ DX人材の育成と共に工場DX導入スピードを加速
 - ✓ 25年度から各工場の工場DX導入状況をKPI化・可視化
- 工場の要望、必要性も加味して、導入ステップを個別検討

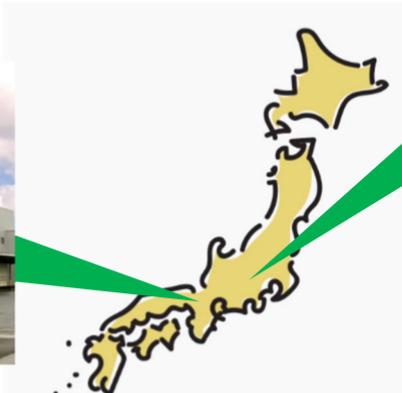
注： 工場の要望、必要性も加味して、導入ステップを個別に検討
(メニューを詳細に定義し、独自導入も可能にするオプションも検討)

生産自動化への取り組み

	1. DX開発フェーズ	2. 変革フェーズ	3. イノベーションフェーズ (創立100年に伴った変革期)
DX推進	Ver.1.0 基礎生産でDXを始める	Ver.2.0 工場DX-AI活用 Ver.3.0 自動化の導入と推進	Ver.4.0 自動化の導入と推進
	FY24/3	FY25/3	FY26/3
			FY27/3
			FY28/3
			FY29/3
			FY30/3
			FY31/3 & Beyond

振りだそう、自然の力。
Calbee

現在「DXによるじゃがりこ製造ラインの自動化」に、岐阜かかみがはらと関西びわこの2工場の若手メンバーと、研究部、生産本部、DX推進部のメンバーが集結しました。



製造プロセスの理解から始め、
どのような管理指標で
品質が作りこめられるかを学習

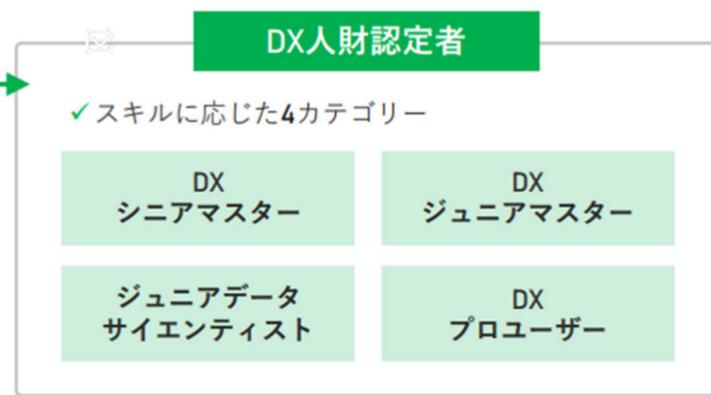
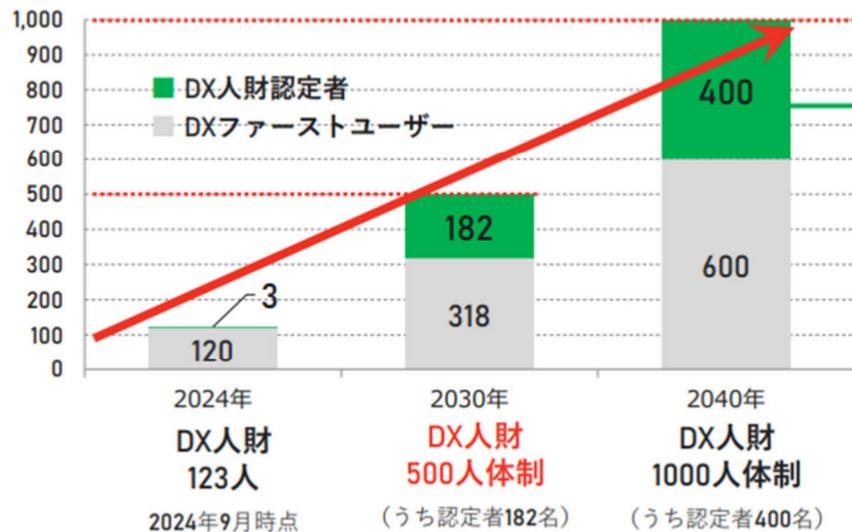


7つの自動化テーマ候補を立案し、
チームで取り組み中

DX人財の育成

DX推進に欠かせないのは、
業務に精通した人がDXツールを扱えるようになり、
問題解決を進められることです。

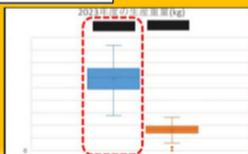
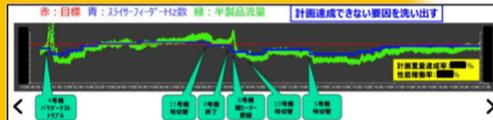
2030年度に **500名のDX人財** を目指す



工場DXの推進・工場DX人財の育成を目的として「AIアカデミー」を2024年4月に西日本で立ち上げ
選定メンバーの活動期間は2年 ▶2025年度には東日本にも拡大予定

DX人材の育成 「ボトムアップのアプローチの人材育成」

「データ分析」と「現場改善」両方のアプローチで、現場の課題解決にDXを活用できるスキルを身につける方の育成を実施しています。

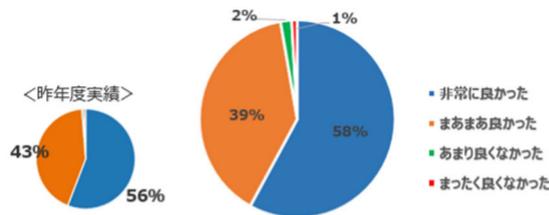


DX人財の育成 「DXカンファレンス」

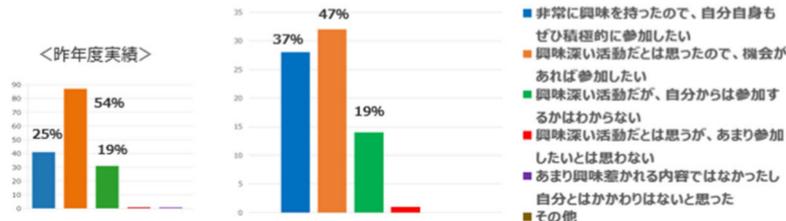
全社員に向け毎年「DXカンファレンス」を開催し、情報を発信しています。



～カンファレンス全体としてはどうでしたか？～



～カルビーのDXについてどう感じましたか？～



DX人材の育成 「DXアイデアソンワークショップ」

「DXアイデアソンワークショップ」を開催し、アイデア創出を体験してもらっています。

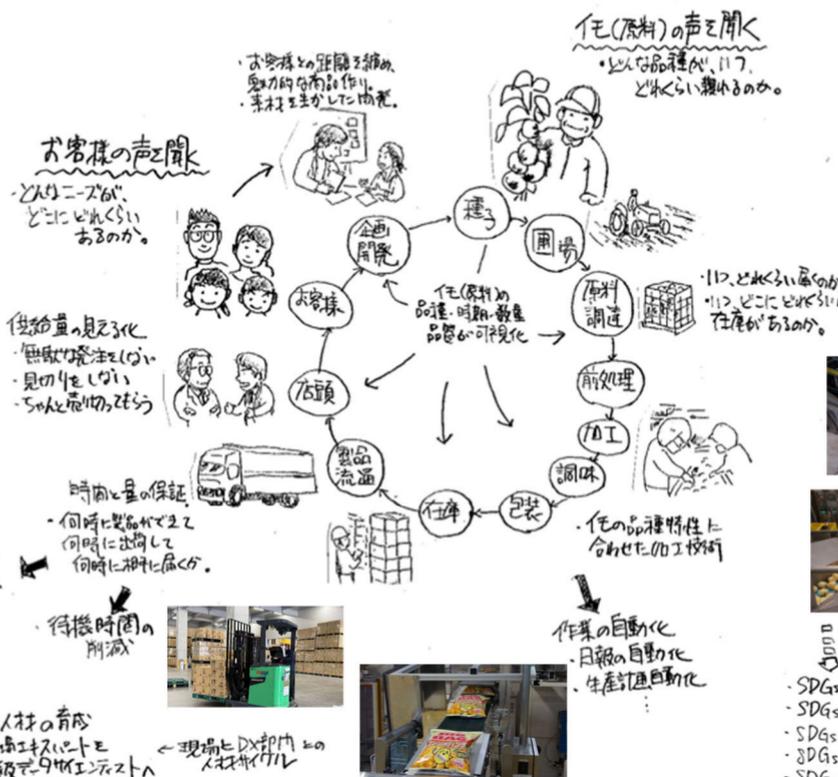
参加した工場メンバーが、2年後実際にAIを使ったフィード量予測モデルを構築しています。



1. **生産自動化を進め、一人当たり生産性の劇的向上**
2. **工場DXの標準化の推進**による工場全体のDX進捗レベルアップ
3. **DX人材の育成と活躍の場を創出**
改善と革新を進めるとともに、従業員のモチベーション、エンゲージメントの向上
4. **グローバル工場でのDX進化**
5. **ばれいしょDXの進化と、工場DXとの連携**

「ばれいしょDX」の概要 ~ カルビーならではの取り組み

「イモ(原料)の声を聞き、お客様の声を聞いて、両者を近づけて無駄をなくすDX」



工場DXとS&OPとの連携を実現しバリューチェーンの全体最適化へ

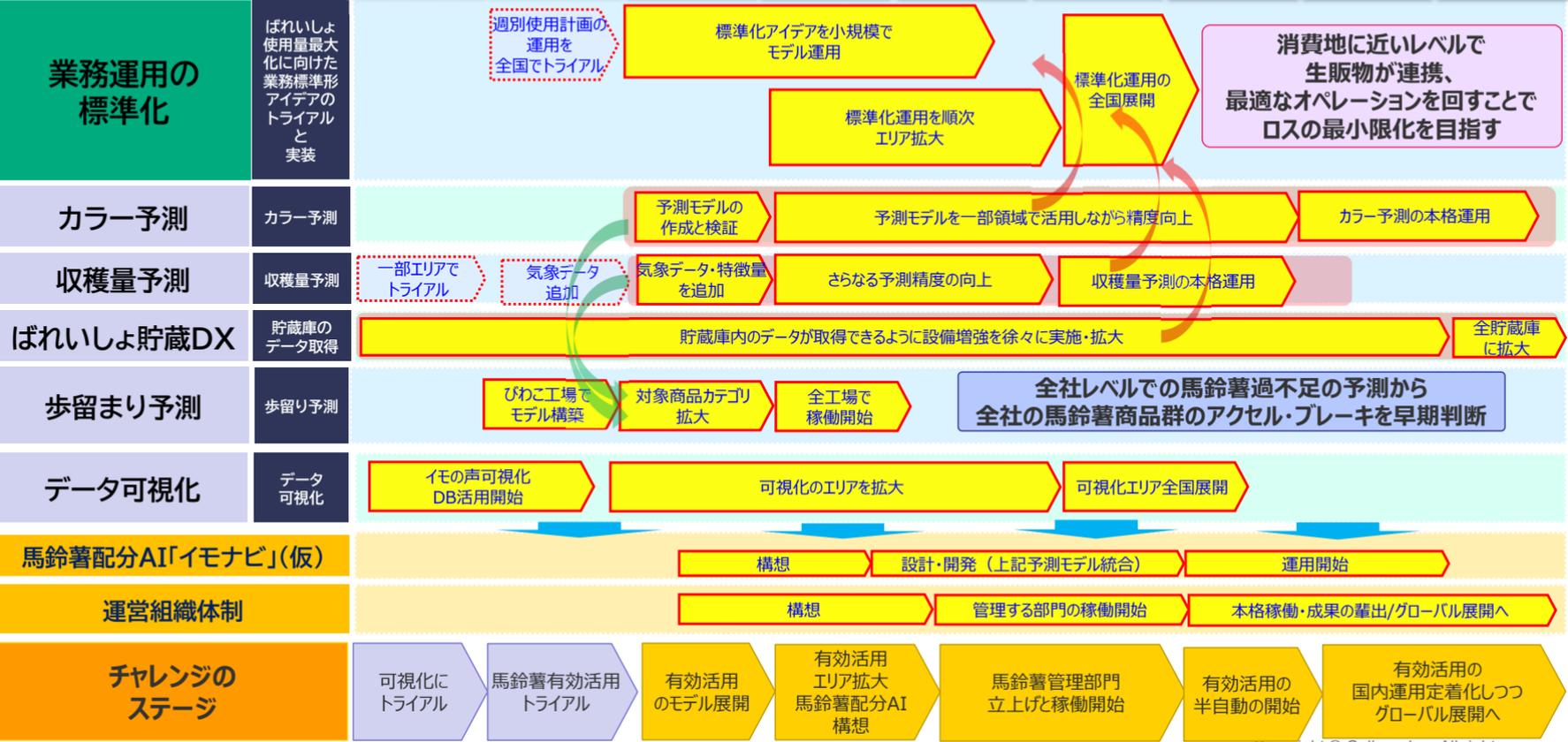
生産者が丁寧に作ったイモを、1粒たりとも無駄にしない、サステナブルなビジネスシステム(を、変えるDX)

- 解決すべき課題**
- ・収穫量・在庫量・歩留まりのAI予測
=> 生産・販売計画の精度向上
 - ・カラー(揚げ色)・不良率・比重といった品質の予測
=> 使用タイミングの適正化
 - ・コストを考慮した馬鈴薯使用計画の実現

- SDGs
- ・SDGs 2: 持続可能な農業
 - ・SDGs 8: 働きがいのある経済の成長
 - ・SDGs 9: 産業の革新性
 - ・SDGs 12: 持続可能な消費と生産
 - ・SDGs 13: 気候変動対策

ばれいしょDXの全体構想ロードマップ案

2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2031～



本資料に関するお問い合わせ：

カルビー株式会社 IR

E-mail：2229ir@calbee.co.jp

<https://www.calbee.co.jp/ir/>

- グラフ上の事業年度表記はFY(Fiscal Year)を用いています。FY2026/3(FY'26/3)は2026年3月期を指しており、他の事業年度も同様に表記しております。特にその指定がない表記は、暦年を表しています。
- 本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関係する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。

掘りだそう、自然の力。

Calbee